

子どもの生きる力を育むプログラム

子育て支援の実行計画「ようきた（北）ね子育て三ツ星プラン」は、子ども、保護者、地域を三つの星にたとえ、それぞれが輝けるように子育て支援に取り組んでいます。

「子ども自身への支援」について、第 1 期北区政策会議で「生きる力を育むプログラム」を事務局から提案し、同会議でいただいたご意見を踏まえ、「わくわく教室」として令和 5 年度の夏休みに実施しました。

● 令和 5 年度の夏休みに子ども食堂 3 か所で「わくわく教室」を実施

【北区広報紙 令和 5 年 7 月号 1 面抜粋】

○事業目的

主に学齢期に達したばかりの子どもを対象に、自らの意思と責任で主体的に思考・判断・決定・解決できるよう、学習、食、生活習慣に関する支援を行い、また、様々な体験活動を通じて子どもの「生きる力」を育む。

○事業概要

小学 1 年生を対象に夏休み期間を利用して週 1 回全 3 回のプログラムで実施。

地域の子ども食堂を実施場所として、子ども食堂スタッフ、大学生ボランティア等の協力を得ながら学習支援、食育、基本的な生活習慣づくり支援など様々な体験活動を実施した。

令和 5 年度に実施した各子ども食堂での体験内容は次のとおり

- ・子ども食堂つなぐば・・・ピザ窯でピザづくり、味噌づくり、駄菓子屋で買い物、竹藪で竹を切る、流しそうめん
- ・モモの木子ども食堂・・・書道体験、紙すき、陶芸、流しそうめん、畑でトマトの収穫
- ・子ども食堂マリリンの家・・・万華鏡づくり、キッチンカーで焼きそばづくり

※最終日は参加者全員が集合して堺市立総合防災センターにて災害体験

○体験の一部を写真で紹介

・防災センターでの災害体験



煙からの避難



消火器の使い方



震度7の揺れを体感



間近で消防車を見学

・その他にも生きる力を育むために様々な学びを得る体験



みんなと一緒に
夏休みの宿題



予算の範囲で昼ご飯
の材料のお買い物



自分たちの食事を
自分たちで料理



料理に使う野菜の
収穫体験



流しそうめんを使う
竹の収穫体験

○良かった点

・普段出来ない体験活動ができた。

～アンケート結果から～

「様々な体験活動が出来て楽しかった」(小学生)

「毎回楽しそうに参加し、体験を通じて自己肯定感が向上した」(保護者)

「ボランティアの大学生と触れ合えたのも良かった」(保護者)

「子どもたちと一緒に楽しめた」(大学生ボランティア)

「子ども食堂の活動を見たり聞いたりでき、学びになった」(大学生ボランティア) など

・事業をきっかけにつながりができ、関係が継続している。

～アンケート結果から～

「保護者にInstagramや公式LINEの登録をしてもらい連絡を取り合っている」(子ども食堂スタッフ)

「子どもたちが事業の後も子ども食堂のイベントに参加している」(子ども食堂スタッフ)

「これまであまり接点がなかった子ども食堂と協働でき、つながりを持つことができた」(子育て支援課職員)

など

○実施によって見えてきた課題

- ・受け入れ人数が合計 15 名で、希望者（56 名）の多くが抽選で外れ参加することが出来なかった。
- ・子どもへの接し方について戸惑いの声があった。
～アンケート結果から～
 - 「子どもへの接し方が分からなかった」（大学生ボランティア）
 - 「子どもたちが危険なことをしている時、けんかになりそうになった時、優しくまたは厳しくすべきか、自由にさせるべきなのか判断が難しい」（大学生ボランティア）
 - 「それぞれの子どもの意見を尊重しながら調和を図るのが難しい」（大学生ボランティア）
 - 「甘えたい気持ちを受け止めることが大切だと思う反面、初対面の大人にこれほど近づいてしまう子どもの無邪気さに、少し怖さも感じた」（大学生ボランティア）
- ・「生きる力」を育む体験活動メニューの更なる充実。

○課題解決に向けた取組

- ・受け入れ人数拡充のため、子ども食堂に対し事業説明会を実施する。
- ・本事業を実施する各子ども食堂の支援者及び大学生ボランティアに対して、事業の趣旨や子どもへの接し方（ex. 困った時は責任者に声掛けする）について説明する機会を設ける。
- ・子ども食堂から提示された体験活動について目的や狙いを聞き取り、子どもの成長を促すものかを協議しながら事業を展開する。

●今後の新たな展開

- 令和 6 年度は受け入れ人数を 30 人に拡充して実施
子ども食堂 3 カ所×受入数 10 人=30 人（予定）